

般若寺・東城寺結界石（大界外相石）

市内穴塚の般若寺（市立博物館管理）と東城寺地内の東城寺境内に、県指定文化財の結界石があります。この他にも、般若寺には境内に1基、東城寺には山麓に4基（市指定）、無年号の結界石が残っています。



般若寺結界石（県指定）



東城寺結界石（県指定）



東城寺結界石（市指定1）



東城寺結界石（市指定2）



東城寺結界石（市指定3）



東城寺結界石（市指定4）

両者とも鎌倉時代の建長5（1253）年作で、前者には7月29日、後者には9月29日の造立日も記されています。正面には大書で「大界外相」と薬研彫で刻まれています。字体の特徴として「界」の字

は三画目が上に大きく突き出る点、「外」の字は左右に大きくはらう点が指摘されています。

石の材質は片磨岩で、つくば市平沢周辺の山中で採掘されたと考えられます。板状に剥がれ易く、加工が容易なことから、縄文時代の石皿、古墳の石棺材等、古くから積極的に利活用された石です。

「大界外相」とは律院の結界を示す意味で、僧が止観等の儀式を行う際に清浄な空間を定めるのが目的です。奈良市の東大寺や唐招提寺では、現在も戒壇院の境界に「大界内相」、境内外に「大界外相」の石が建っています。



大界外相石（唐招提寺境内外）



大界内相石（唐招提寺戒壇院）

なおつくば市小田の集落内には、宝篋山麓の廃寺三村山極楽寺跡に建てられた「三村山不殺生界」石（建長5年9月11日銘）が残されています。「界」の字体が東城寺・般若寺大界外相石に酷似していることから、同一の作と考えられています。



三村山不殺生界石

この時期、西大寺系律宗僧忍性（1217～1303）が建長4（1252）年から弘長元（1261）年までの10年間、常陸に居て戒律を守ることや殺生禁断等を布教した時期に当たっており、大界外相石や不殺生界石は彼の手によるものと推定されています。忍性は後に、鎌倉幕府の北条氏に招かれて極楽寺等の寺院を創建し、西大寺系律宗が全国的に流行する原動力の一つになります。忍性は仏師、瓦工や石工等奈良の進んだ技術者を連れて来たと言われ、西大寺系律宗の影響を受けた寺院には五輪塔等の石造物や中世の瓦等が現在も見ることができます。

鎌倉時代の大界外相石は、広島県世羅町今高野山龍華寺（県指定）や生駒市竹林寺に伝えられているだけです。般若寺・東城寺の大界外相石は全国的に見ても価値の高い資料といえるでしょう。